

TTAP 研修2017in釧路

日時:平成 29 年 7 月 22 日(土) ~ 23 日(日)

受付 9:00~ 開始 9:30~

場所:釧路センチュリーキャッスルホテル 2F

定員:1 日目 100名 2 日目 60 名 (先着)

講師:



梅永 雄二氏
早稲田大学
教育・総合科学学術院 教授
臨床心理士



倉本 義則氏
京都女子大学
発達教育学部 児童学科 教授
臨床心理士



<プログラム>

7月22日

7月23日 (ワークショップ)

9:30~	開会	9:30~	開会
9:45~	TTAP について	9:45~	インフォーマルアセスメントについて
11:00~	休憩	10:15~	ケーススタディ事例紹介 フォーマルアセスメントの結果報告
11:10~	実践報告 (ゲストをお招きして)	10:45~	休憩
11:40~	発達障害 (高機能) の方への TTAP の活用のポイント	11:00~	インフォーマルアセスメントの 準備について (事前学習について)
12:10~	休憩	12:00~	休憩
13:10~	T-STEP について ※新しい情報です	13:00~	WAIS を解釈しよう (演習)
15:10~	休憩	14:45~	休憩
15:20~	WAIS の解釈から学ぶ 発達障害の特性について	14:55~	インフォーマルアセスメントの 計画 (演習)
16:50~	閉会		
※日本の職業リハビリテーションを代表する お二人の講義です。		16:35~	まとめ
		16:50~	閉会

TTAP 研修会 2017 in 釧路

参加申込書

FAX 0154-65-6470

※申込締め切り 平成29年7月10日(月)

所属先名	職名	氏名	自閉症支援の有無 経験年数	参加日 ※参加する日程に ○をつけて下さい	
				1日目	2日目

※グループ分けをしますのでTTAP実施の有無にご回答下さい

※申込担当者名(送信者名) _____

連絡先電話番号 (_____)

※当日参加者名簿を配布予定です。掲載の可否についてお知らせ下さい。

可 ・ 不可

※郵送またはFAXでお申込み下さい。

尚、FAX送信後に申込書の到着をお電話にてご確認くださいますようお願いいたします。

FAXでの参加申込の場合は、確認の電話で申し込み終了となります。

(問い合わせ先)

社会福祉法人 釧路のぞみ協会

くしろ・ねむろ障がい者就業・生活支援センター いっれん (担当 今野/原田)

TEL 0154-65-6500

E-mail jiritsu-center@sky.plala.or.jp

TTAP 研修 2017 in 釧路

日時：平成 29 年 7 月 22 日(土)9:30～16:50

場所：釧路セシユリィキャッスルホテル 2 階 鶴の間

目的：TTAP を活用し、障がいのある方々の就労移行を円滑に進めるとともに、TTAP についての理解を深め、実践力を高めることを目的とする。

次 第

1. 開会挨拶 くしろ・ねむろ障がい者就業・生活支援センター
センター長 高谷 さふみ

2. 講 義 TTAP について
実践報告
発達障がいの方への TTAP 活用のポイント
T-STEP について
WAIS の解釈から学ぶ発達障がいの特性について

講 師：梅 永 雄 二 氏

早稲田大学教育学部教育心理学専修 教授

発達障害者・自閉症者の就労支援、職業リハビリテーションに関する
研究による著書多数。

倉 本 義 則 氏

京都女子大学発達教育学部児童学科 教授

臨床心理士

実践報告者：中野 喜恵 氏

生活介護事業所ぼぬーる 所長

加藤 隆史 氏

パーソナルサポートほけっと ヘルパー

佐藤 恵理香 氏

生活介護事業所ぼぬーる 支援員

3. 閉会挨拶 社会福祉法人 釧路のぞみ協会 自立センター
所長 横山 豊

◎資料同封のアンケート用紙の提出にご協力ください。

主 催 くしろ・ねむろ障がい者就業・生活支援センター ぷれん

TTAP 研修 2017 in 釧路

日時：平成 29 年 7 月 23 日(日)9:30～16:50

場所：釧路セブチリキヤッスルホテル 2 階 平安の間

目的：TTAP を活用し、障がいのある方々の就労移行を円滑に進めるとともに、TTAP についての理解を深め、実践力を高めることを目的とする。

次 第

1. 開会挨拶 くしろ・ねむろ障がい者就業・生活支援センター
センター長 高谷 さふみ

2. 講義・演習 インフォーマルアセスメントについて
ケーススタディ事例紹介
インフォーマルアセスメントの準備について
WAIS を解釈しよう
インフォーマルアセスメントの計画

講 師：梅 永 雄 二 氏

早稲田大学教育学部教育心理学専修 教授

発達障害者・自閉症者の就労支援、職業リハビリテーションに関する
研究による著書多数。

倉 本 義 則 氏

京都女子大学発達教育学部児童学科 教授

臨床心理士

3. 閉会挨拶 社会福祉法人 釧路のぞみ協会 自立センター
所長 横山 豊

◎資料同封のアンケート用紙の提出にご協力ください。

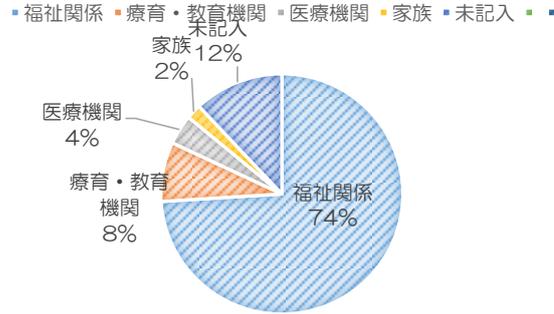
主 催 くしろ・ねむろ障がい者就業・生活支援センター ぷれん

集計結果（参加者73名 『回収率68.5%』）

アンケート回答所属内訳

アンケート回収者所属内訳	福祉関係	37
	療育・教育機関	4
	医療機関	2
	家族	1
	未記入	6
	計	50

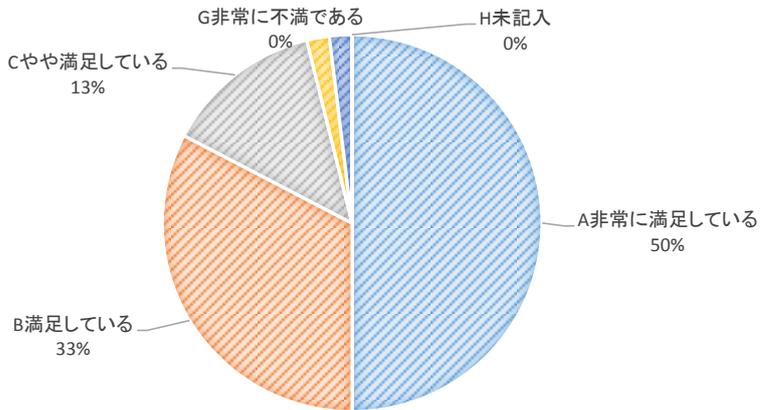
アンケート回収者所属内訳



1.研修の内容は満足できるものでしたか？

1.研修の内容は満足できるものでしたか？

- A非常に満足している
- B満足している
- Cやや満足している
- Dどちらでもない
- Eやや不満である
- F不満である
- G非常に不満である
- H未記入



A 非常に満足している

《福祉機関》

- 知識が深まった。支援に活用できる。
 - 考えや見方について大変勉強になった
 - 先生たちの貴重な話を聞くことができた（梅永先生）
 - 梅永先生のお話は2回目となりますが、改めてTTAPの必要性がわかりました
 - TTAPの復習や新しい情報が聞けて勉強になりました。
 - 分りやすかった
 - WAISの解釈の仕方が非常に分りやすかった
 - 日常の支援に役立つ
 - 一人ひとり困難の内容が違うアスペルガー等の支援方法に悩んでいます
 - ジョブコーチ支援に入っていますが、そこでおこること、企業からの目線ばかりをご本人に伝えて、本人の特性を考慮出来ていない自分に気が付けた。
 - エスピッドの基本的な考え方、概要がわかったから特に行動変容ワークシートを使ってみたい。WAISの解釈が今までより、自分の物になったような気がした。
 - 専門性の高い内容であると同時に高機能ASDの方へのアプローチについて参考になりました。
 - 理解しやすい説明だった
 - 就労の進め方の参考となる情報がたくさんあった
 - 一つひとつ丁寧でわかりやすかった
 - 色々な事例を聴くことができた
 - TTAPの再確認と新しい情報T-STEPについて学ぶことができた
 - TTAPの研修は初めてで、実際にためしてみたいことや、今後注意して見ていきたいがたくさんありました
 - 初めてTTAP研修に参加しましたが、基本的なところから説明してもらえて助かりました。
 - 梅永先生の事例や身近な話題を交えた内容が面白かった
- 《療育・教育機関》
- 発達障害と企業との橋渡しがされることが、当たり前のことになりつつある様子がわかりました。
 - 初めての参加ですが、わかりやすかった
 - 初めてしっただけが多く、知識の幅が広がった。

B 満足している

《福祉機関》

- 釧路以外の事業所のTTAPの評価に基づいた支援が聞けて学ぶ事が出来た。
- 内容のよい研修を受講できた
- 内容が反復され、覚えることができた
- やや駆け足の日程でした

《医療機関》

- 実践報告もあり、実際の臨床での様子を詳しく見る事が出来た。WAIS解釈についても、細かく対処法を説明して頂き、分りやすかった。

C やや満足している

《医療機関》

- 有効性はよくわかりました。もう少し具体的にどのように使うのか、基本的なことがわかればよかった。

《療育・教育機関》

- T-STEPについての情報が参考になりました。

《所属機関未記入》

- とても勉強になったが、ボリュームがありもう少し絞って学びを深めたかった。

D どちらでもない

《福祉機関》

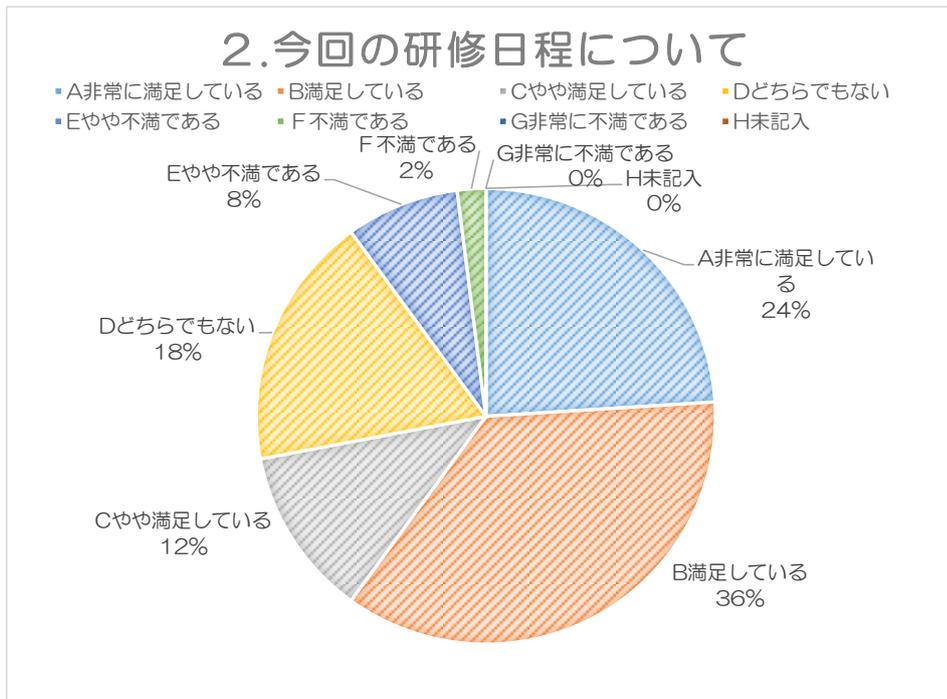
- WAISのほうはいきなりデータの見方で難しかった

E やや不満である

《福祉機関》

- WAISの解釈から学ぶについて、もう少し詳しく丁寧に説明をして欲しいと思いました。

2. 研修日程について



A 非常に満足している

《福祉機関》

- ・倉本先生のWA I Sの解釈が自分の知識が足りなくて難しく感じました。勉強します。
- ・休憩時間が適切
- ・中身濃い研修時間でした

B 満足している

《福祉機関》

- ・参加しやすかった
- ・休日のため
- ・1時間おきの休憩だったため、集中できた。
- ・ちょっと良い
- ・この日程より長い時間になると集中が途切れるので、ちょうど良かった。
- ・土曜日は営業日なので、できれば土曜は避けて欲しい
- ・講義と資料のスレが多く感じました

《医療機関》

- ・全体的に細かい説明で分りやすかったのですが、少しボリュームが多く、今後の消化が必要だなと感じた。
- ・今回は土曜のみの参加でしたが、選択できたのが良かった。行ってみようという気持ちになった。

C やや満足している

《福祉機関》

- ・一つひとつの講義をもう少し時間をかけてお聞きしたかったと思います。

D どちらでもない

《福祉機関》

- ・お話は満足でしたが、もっと実践が見たかった。
- ・平日でも休日でもどちらでも構いません
- ・週末ではなく平日の方が参加しやすい
- ・平日、週末どちらの日程でも一長一短があるから

《医療機関》

- ・2日連続は大変ですが、内容を考えると仕方がない

E やや不満である

《福祉機関》

- ・土日開催は参加しづらい
- ・平日開催を希望します

《療育・教育機関》

- ・内容のボリュームが多いかな？と感じた。WA I Sは少し難しかったと思う。

F 不満である

《福祉機関》

- ・家族との時間がとても減ってしまった

3. 今回の研修内容について、ご所属の職場でどのような形で活かしていきたいですか？自由にご記入ください。

《福祉機関》

- 多様な連携を行ない、アセスメントを行なっていきたいです。
- T T A P活用からアセスメントを集め、対象者の強みを生かした就労支援を目指したい。
- まだ一度もやった事がないので、まず試してみたい
- T T A Pに基づいた支援計画を考えることなど
- ソフトスキルのアセスメントを今以上に意識して、情報共有をしていきたいと思います
- アセスメントの重要性を改めて勉強する事ができた。
- T T A Pなどの支援の引き出しを得る事が出来たので、直面した場面でどんな支援を引き出しを活用したら良いか、常に考え頭において支援していきたい。その人のストレンクスを引き出せるアセスメントを行ないたい
- W A I S検査を医療機関で受けてくる方がとても増えているので、結果の解釈がわかるようになるのでとても有効に結果を活用できます。
- 日頃の支援はもちろんです。新人に対しての支援方法の1つとして伝えると理解が出来やすいと思う。
- 一人ひとり困難内容が違う相談の方々へのアセスメントの不十分さを感じていたので、ワークシートを参考にさせていただきます。
- アセスメントの方法、見方、支援者のかかわり方
- 改めてアセスメントの重要性を再認識した
- 利用者一人ひとりに再度向き合って実施していきたい
- T - S T E P取り入れたい
- W A I Sを取り入れてみたいが、ちょっと良くわからない。難しい。
- まずはT T A Pについて活用できる様しっかり勉強します
- 実習の計画をたてるために生かしていきます
- 研修で学んだことを、チーム支援で行って行けたら様々な意見から、より良いものを行なって行けたらと思う
- T T A Pのアセスメントと取り入れて、芽生えの部分を大切しながら、子供たちのサポートをして行けたらと思った。
- 対象者のアセスメントを行なって、その方に合った支援方法をみんなで検討して支援していきたいと思った
- W A I S検査の分析が出来ようになって支援の参考にできるようになりたいと思う
- 個人にあわせて作業の内容や難しさを考え、利用者の芽生えに働きかけていきたいと思います。
- W I S Cの結果を保護者からいただくことができましたが、それぞれの関連性や強み・弱みをしっかり見て行きたい。
- W A I Sの説明が理解しにくかったので、もう少し説明と資料を合わせて欲しかったです。
- 発達障害の方の特性について詳しく御講義頂き、これからの支援に活用していきたいと思いました。
- 作業班での視覚的構造化
- アスペルガーの方たちに対して、生活支援に活かしていきたい
- 生活介護事業所での事例をきいて、支援の在り方がご本人の生活を大きく変えると改めて感じた。

《療育・教育機関》

- 本人の興味の幅が広がるよう機会を提供したり、他児との生活の中でバランスを整えながら過ごしていけるよう環境を整えていきたい。
- 子供たちが将来就労するために必要な力を、育てる支援ができればいいなと感じた。
- 工夫、応用して生かしていきたいと考えています。
- 特別支援教育では高校の通級指導が導入されています。実際の学習内容や教育糧などの考えについて日々情報を集めています。本日のT - S T E Pはとても参考になった。知的おくれのない生徒への対応のヒントにしたい。

《医療機関》

- 患者さんにどのような可能性があるのかを、考える材料を頂いた気がします。これを参考に患者さんに指導して行きたいと思います。
- 職場では心理検査を行いF Bしていますが、受験者が今後の生活・就労へとつながられるような形で、また支援者が使いやすい情報をF Bしていきたいと思う。

《所属機関未記入》

- T T A Pを実施しているところを実際に見せていただきたいと思いました。

4. 障がい者の就労に関するご意見・ご要望等がありましたらご自由に記入してください。

《福祉機関》

- 就労A・B、生活介護等、目的が異なるはずであるが、活動内容の違いが無いように思われる事業所が多く見られるように感じます。
- 環境アセスメント・コーディネート的重要性をしっかりと勉強しないと支援に行き詰まりを感じます。
- マッチングも定着も難しいです。でも大切です。人的環境の大切さも感じます。
- 市内ではまだまだ障がい者に対する雇用が足りないと思います。
- 就労しても社内で理解をしてもらえぬのが心配
- 就労移行支援、お仕事をやる為にソフトスキルの支援がとても多く、自身がいっぱいになることが多い中でTTAPを学び利用して、利用者さんの就職のため支援させていただきます。
- 仕事以外の部分をいかにサポートしていくか、問題が起きる前に気づき支えが必要だと思います。
- 就労場所はどのような環境なのか、中で何をしているのか全然わからないので知りたい。
- 不登校、引きこもり等、社会性が未成熟なケースへの支援が難しい。関係づくりから始める必要があるがそれが難しい

《療育・教育機関》

- 本人が安心して仕事を続けられるよう、小さいうちから就労に向けたアドバイスや実習が受けられるよう、学校と福祉の連携を望みます。
- 高校卒業後の就労福祉サービス利用が増加しています。今後も連携・情報交換をお願いしたい。

5. 今後の研修会の開催に関してご意見・ご要望等がありましたら、自由に記入してください。

《福祉機関》

- アセスメント収集の具体例
- 余暇を考えるにあたり好みを見出すことが難しいため、学びの機会があればと思います。
- WISC、知能検査と言う事は理解できましたが、解釈までは正直追いつきませんでした。
- 駐車場が狭い
- 梅永先生のお話をもっと聞きたかった
- 事例もとても参考になりました。難しい内容なので、今回のようにかみ砕いて説明して頂いたり、実際の支援での活用方法をしることで、自身の現場にも生かせると思います。
- 今後もたくさん外に出て学びたいと思います。
- 資料にページ数の記載があれば見やすいと思う。
- 今後も参加したいので、開催して頂きたい。札幌でもやってほしい。
- 発達障害の特性、WAISについてはあまり理解ができなかった

《家族》

- 毎年、梅永先生から最新のお話を聞くことが出来るのは大変ありがたいことだと思っています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

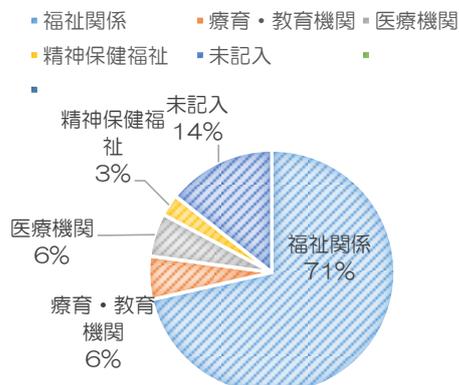
《所属機関未記入》

- WAISの検査内容が分からない事や、私たち支援者が実際に目にできる紙面は情報が限定されているので、もっと基本的な情報について教えていただいてから、今回の様な演習に入りたいと感じた。しかし、本当に多くの学びがあり、大変うれしく思っています。

アンケート回答所属内訳

アンケート回答者所属内訳	福祉関係	25
	療育・教育機関	2
	医療機関	2
	精神保健福祉	1
	未記入	5
	計	35

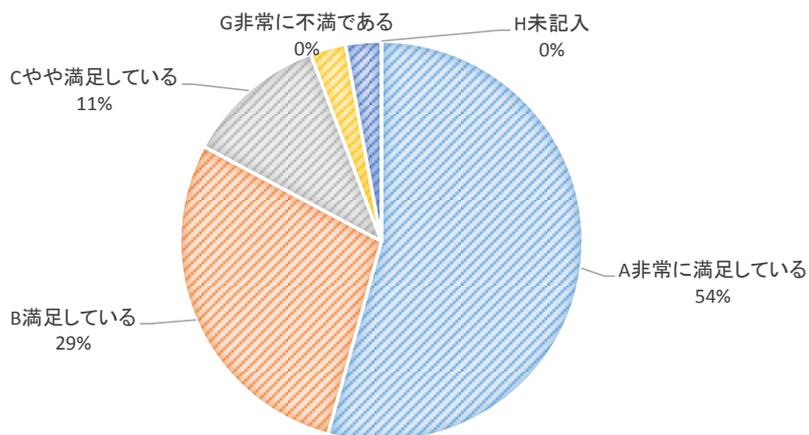
アンケート回収者所属内訳



1.研修の内容は満足できるものでしたか？

1.研修の内容は満足できるものでしたか？

- A非常に満足している
- B満足している
- Cやや満足している
- Dどちらでもない
- Eやや不満である
- F不満である
- G非常に不満である
- H未記入



A 非常に満足している

《福祉機関》

- TTAP、WAIS、2つの検査について学べたから
- WAISの解釈の演習は難しかったが、同じグループの方や他グループの内容をみて、とても勉強になった
- WAISの解釈が難しかったが、流れは少し理解できた。
- 講義と演習を受講したことで、WAISが理解できました
- 一人の方を対象としたTTAP、WAISの演習でより理解しやすかった
- WAISの解釈は難しかったが、興味深いものだった
- 実際演習をする事でいろいろな意見が聞けました。
- 聞くだけではなく、実際に行う事で理解も深まりました

《療育・教育機関》

- 演習を通じて理解を深められた
- 実践、ディスカッションすべてが楽しく理解できた。

《医療機関》

《家族》

《所属機関未記入》

- 利用者様を客観的にみる機会が出来そうです。

B 満足している

《福祉機関》

- 演習を通じてわかりやすかった
 - 復習ができた。WAISも以前より理解が進んだと思う。
- ### 《医療機関》
- フォーマルな演習は少し難しかったですが、実際に色々な視点を持ちながら考えていく重要さを感じた。
 - 個人の特徴はわかっても、どう支援するかが難しいと思っており、今日の研修が参考になりました。

C やや満足している

《福祉機関》

- WAISの部分が難しく、演習がなかなか進まなかった
- 時間を掛けて行ってほしかった。ペースが速い。

《療育・教育機関》

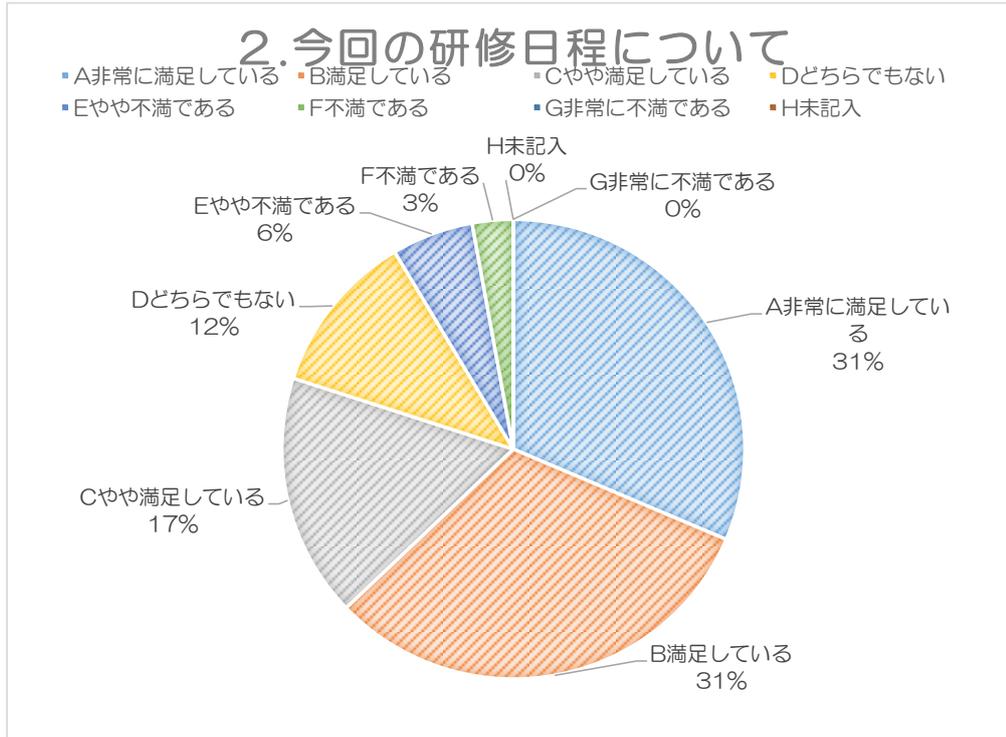
- WAISについて理解できた

D どちらでもない

《福祉機関》

- WAISが難しい

2. 研修日程について



A 非常に満足している

《福祉機関》

- ・充実した内容で演習も多く満足できた。
- ・土日開催だったので、参加しやすかった

《医療機関》

- ・事業所の皆さんがどういう関わりや視点をもって動かれているのかを伺う事が出来て、とても勉強になりました。また、改めてWAISの解釈の理解を深めることが出来ました。

《所属機関未記入》

- ・演習で理解しているスタッフがいた事で、少しわかったと思う。面白いと思った。

B 満足している

《福祉機関》

- ・もう少し日程が長ければと思いました
- ・2日では概要がわかるかどうかだった

C やや満足している

《福祉機関》

- ・時間が足りなかった
 - ・平日開催を希望する
- 《精神保健福祉》
- ・もう少し長くても良いと思う

D どちらでもない

《療育・教育機関》

グループワークの時間が短かった

F 不満である

《所属機関未記入》

- ・家族との時間がなくなった

3. 今回の研修内容について、ご所属の職場でどのような形で活かしていきたいですか？

自由にご記入ください。

〈福祉機関〉

- ・対象者への支援はもちろんですが、スタッフ同士のスキルアップになると思う。TTAPを使いながら意見交換したい
- ・WAISの解釈を以前より少し詳しく読めるようになったので、WAISの活用をしていきたい
- ・利用者の方から提出されるWAISの結果を見とれるようになり、支援の方法、手立てにいかせていきたい
- ・TTAPなどいろんなフォーマルアセスメントを学び、必要性を再度現場に伝えていきたい。
- ・以前より理解は進みましたが、それより興味も更に高まりました。
- ・是非、実践に取り組みたい
- ・TTAPはもう一度最初から見直しが必要と思いました。見直すことを行なっていこうと思う
- ・色々な検査結果から支援方法やツールを考えていきたいと思います
- ・WAISの解釈とTTAPを合わせて、対象者のアセスメントを行なって支援につなげていきたい。
- ・WAISの実際の検査内容が分からなかったため、学んで行きたいと思います
- ・実際やってみる事から始めてみて、その時に今回の研修を思い出されるかが微妙でした
- ・あまり職場で生かすことがないので、活用する場があれば同席して理解を深めたい
- ・事業所尺度など、出来るところからやってみたいと思います
- ・アセスメントの重要性を理解できた。それをもとにソフトスキルで何が本人が苦手なのかを見出して支援したい
- ・WAISは昨日では全く理解できなかったが、本日の演習でTTAPと一緒にやることで何となくですがわかってきた。もっと理解して覚えたいと思う
- ・検査の結果の解釈の仕方を学ばせて頂いたので、アプローチの方法を考えていきたい

〈療育・教育機関〉

- ・「情報を集めてアセスメントから手立てを導く」を大切に、支援を実行していかななくてはならないと感じた。
- ・TTAPなどを学校内で活用できる様、工夫して実践に取り組みたい

〈医療機関〉

- ・WAISの解釈を受験者や支援者に係るスタッフに分りやすく、普段生活に活かしやすい形でお伝えしていきたい。受験者にとって、どのような支援やポイントがあると取り組みやすくなるのかを、改めて重点に考えFBしていきたいと思いました
- ・就労に必要なスキルは何か意識しながら仕事をしていきたいと思います。

〈精神保健福祉〉

- ・様々な面で活用でき労自閉に対してがメインだったが、他にもアレンジが効きそう

〈所属機関未記入〉

- ・特性なのか性格なのか、見分けがつかない利用者様に使用してみたいと思いました。
- ・利用者のニーズや能力を、アセスメントツールの有無によらず、潜在的に引き出していきたい。
- ・WAISの結果だけでは解釈できませんでしたので、さらに学び理解したうえで生かしていきたいです。

4. 障がい者の就労に関するご意見・ご要望等がありましたらご自由に記入してください。

〈福祉機関〉

- ・T-STEPについてまた勉強したいと思うので、研修を行ってほしい。高校からの相談が増えている。
- ・ダイレクトBの実習、評価について知りたい
- ・利用者さんの希望に合った就労場所がもっと増えるように努力していきたい

〈療育・教育機関〉

- ・A型を希望する生徒が増えてきました。釧路地区のこれからの対応について、どう進路対応を展開していいか今後相談していきたいと思います。

〈精神保健福祉〉

- ・ニーズ、目標にあわせた実習・仕事を事業所間で共有していきたい。

〈所属機関未記入〉

- ・問題行動の多い方へのストレスフリーになる支援方法を、具体的に学びたい。

5. 今後の研修会の開催に関してご意見・ご要望等がありましたら、自由に記入してください。

〈福祉機関〉

- ・WAIS、演習をしたことで少しわかった気がします。まだまだ勉強が必要だと感じた。
- ・資料の順番が違ったようで、探せない時があった。
- ・今回の研修も大変興味のある内容でしたが、難しかったためついていくのに必死でした。導入に時間をかけて頂けると頭に入りやすいと思います。
- ・WAIS検査について、理解していると今回の内容もわかりやすかったと思われる
- ・時間が無かった

〈療育・教育機関〉

- ・いつも専門的な情報がもらえる研修会を、企画・運営して頂き感謝しています。今後もよろしくお願いします。

〈所属機関未記入〉

- ・WAIS検査を見学できるような研修を希望します。CSAWの中身の具体的記入方法を知りたい。

職員研修 報告書・レポート

平成29年7月22日(土)

氏名： 柿沼 弘昭

① 研修名： TTAP 研修2017 in 釧路

② 研修内容：

- ・梅永先生が職業センターで指導を始めた頃は、8割が知的障がいの方でそのうち3分の1の方が自閉傾向だった。
- ・医療関係の方は、診断や評価はできるが、その後の療育が出来る人が居なかった。反面、福祉分野の方は、アセスメントがしっかりできる方が居なかった。
- ・離職が多いのは知的に高い方
- ・大学まで出ていても、これがしたいと言えない。ニーズアセスメントが必要。
- ・就労支援と名がついていても、今だ専門性が無いところがある。
- ・ESPIDDでは、職場と環境のマッチングを重視している。
- ・知的に高い方でも面接には、支援者が随行することがとても大切。
- ・ジョブコーチの仕事がジョブコーディネーター的な仕事になってきている。
- ・アスペルガー-症候群の方に対するスキルを無理に教えるのではなく、自律して働けるように支援することが大切。

③ 成果/感想：

- ・実行機能の困難さのある方は、ちょっとした刺激があると、思考や判断が入らずに衝動的に反応してしまう。そのため、何をどのように行なうのかを発達障がい者に分かりやすく示す必要がある。
- ・中枢性統合に問題があると、衝動的に反応したり、少なすぎる情報に頼ったりする。
- ・行動に問題がある場合、背景にコミュニケーションの問題がある場合が多い。
- ・相手が動揺しているかどうか分からない。また、相手が自分に対して腹を立てているかどうか分からない。あるいは、相手がそのような状態の時に気付かない。
- ・職場で強みを活用できるように、アセスメントして、伝えてあげる。
- ・発達障がいの方は、退屈の閾値が高いので、長時間にわたり、一つの仕事に集中することができるといった強みを持った方がいる。
- ・サンフランシスコには、ザ、スペシャル、ギルドといわれるアスペルガー-症候群の方に特化した、職業訓練とインターンシップのプログラムがある。

④ 今後の支援に活かすため、具体的に実行する行動：

- ・検査が先ではなくて、利用者を知るということが第一義的な意味をもっている。
- ・トータルサポートを念頭に、アセスメントに基づいて支援を行なう。

- 不安を軽減するために、スケジュールを用いて、何をいつするのかを具体的に伝える。
- なぜそのような活動が重要なのかを説明する。
- 妨げとなる可能性があるものは何かを尋ね、緊急事態への対策計画を立てる。
- やらなければならないことをどうやって覚えるかを確認する。
- 理解しているかを確認する。
- 上手く行かなくても、それは再度方略を練る必要があることを示しているだけだと伝える。

職員研修 報告書・レポート

平成29年7月22日(土)

氏名： 森島 貴子

- ① 研修名： TTAP 研修 2017 in 釧路
- ② 研修内容： TTAP～どんな支援が必要なのか導き出す
ソフトスキル～どんなコミュニケーションなら機能するか？を検討する
芽生え～教えれば伸びるところ・不合格～「今はまだ適切な時期じゃない」
一人で遊ぶ～休憩時間を上手く使うことができる
どういう提示の仕方だと仕事をしやすいかを確認していく
ESPIDD～アスペルガー症候群に特化した職業リハビリテーション
コミュニケーションの問題～「暗黙の了解がわからない」だけで終わらせない。
→だから、どうするのか？どう対応したらよいのか？を考えることが大事
アセスメントに基づいて配慮事項をまとめる
特性を強みにすると「カリスマ」になれる→社会的なことはできなくても…
ジョブコーチ→ジョブコーディネーター

WAIS～言語性検査：単語・類似・算数・数唱・知識・理解・語音整列

動作性検査：絵画完成・符号・積木模様・行列推理・絵画配列・記号探し・組み合わせ

群指数：言語理解=単語・類似・知識 作動記憶=算数・数唱・語音整列

知覚統合=絵画完成・積木模様・行列推理 処理速度=符号・記号探し

群指数の差や群指数内の差を見ていく ディスクレパンシー分析

SとWの判定→全下位検査の評価点平均から強く出ているか弱く出ているか

○W=Wが1個以上、Wが1個とーが1個以上

△W=ーが2個以上でWがない、Wが1個

○S=Sが1個以上、Sが1個と+が1個以上

△S=+が2個以上で、Sがない、Sが1個 S/+とW/-との違い

プロフィール分析していく。

③ 成果/感想：

WAISの研修を受けた事がないし、検査に立合った経験もない。

しかし、今回倉本先生の講義をお聞きし、検査は出来ないが、解釈の仕方がとてもわかりやすく理解できた。

ただ、評価するだけではなくいろんな検査を比較することで本人の得手不得手が見えてくることがわかった。プロフィール分析することで、詳しく結果を解釈することができることがわかった。

④ 今後の支援に活かすため、具体的に実行する行動：

まずは、息子の WAIS の結果をもとにプロフィール分析してみて、結果説明文章を作ってみたいと思う。実際にいただいた文章と照らし合わせて、どう解釈すれば良いか考えてみたい。

一度、評価を考えてみることで、評価の意味を読み取ることができるようになりたい。ぷれん登録者は、WAIS の検査を受けてきて、結果表を持参して下さる方が多いので、より詳細にアセスメントすることができる。

また、TTAP は日々進化しているなので、都度新情報を得て勉強していきたい。本人の困り感がどこにあるのかを考えながら支援していきたい。

職員研修 報告書・レポート

平成29年7月22日(土)

氏名： 大塚 裕功

① 研修名： TTAP 研修2017 in 釧路

② 研修内容：

・時代の流れに従い、自閉症の方の対象は大きく変化してきている。以前は8割以上の方は行動障害を伴う知障害の方が大半をしめていた(自閉症の方の就職率も1割を切っていた)

・一連の流れに従い評価ができる人がいない。医療は診断ができるが、生活に関わることをしない。連携や地域モデルに移行することが困難を要していた。

・高機能の方の対象が増加しえきている。大学まで出ていても、適切なジョブマッチングが難しければ、就職に結びつかないことや離職に繋がってしまうこと。定着支援に関しては依然として課題、ニーズアセスメントや、その人のなりたいもの・・・何を求めていくのか検討していく必要がある。

・就労支援の必要性～何をどうしていくのか？ 模索していく必要性を全体で協議すること。福祉と教育、その人に必要な物は何か。抽象的なものや必要性があるもの価値を求めてくこと。

・ESPIDDとは何か、高機能の方は学習ができる。しかし、離職に繋がっていくのはなぜなのか。困難を要する自閉症の支援とは何か。ソフトスキルを育てていくこと。

・ジョブコーチから、発達障害の方の支援に向けてはジョブコーディネーターへと変化してきている。企業側から認知されていく為には、どのような支援や役割が必要か、模索していく必要があるだろう。

・アパル - (自閉症アパラム) 症候群の方への支援は難しい。その人が獲得できるスキルは何か、個別支援の必要性を検討。サポートの形成なにより、地域で生活していく為に必要なものは何か・・・

③ 成果/感想：

・いちがいに、発達障害の支援は人言で表すことはできない。個別に課題が違いがあるということも特徴といえるだろう。共通点に関してはICD10における症例を特徴に評価していること(ミナーヨソ)。では何か有効なのか？アセスメントを忠実にを行い、整理を掛けることが必要になってくる。

その為のツールは色々ある。TTAPはアセスメントツールとして有効である。就学前の関わりや、学童期から関わる事ができれば、TステップやSピードなど、

利用者に有益な支援を展開していけるのかもしれない。アメリカ型の支援から日本に合った支援に変換していくためには、どう進めていけば良いのか。

今後も模索しながら、実践を重ね共生社会に向けて～地域支援のあり方へと変容していく必要があるだろう。

④ 今後の支援に活かすため、具体的に実行する行動：

・梅永先生も述べたように、今後は高機能自閉症の方が増えてくるだろう。Tステップへの発展形を踏まえると、学童期からのアプローチを含めてフォーマルな見解で進めて行く必要があると考える。

学童期からの関わりができていれば、自ずと支援に関しても方向性が見えてくる。学力的に問題がなければ、高校進学や就労に関しての最低限の準備はできるのかもしれない。複雑なニーズへの実践に向けては、地域の理解を得る必要があるのではないだろうか。連携・繋がりをキーワードに、教育機関・行政・市町村・関連事業所等へとジェネリックに働きかけること。

今回の研修で実例を得たように、ウエスを含めた複合的なアセスメントを含めた、総合的な支援を展開していく必要がある。